

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

オオキンケイギク (*Coreopsis lanceolata* L.)

畠瀬頼子 (国土交通省国土技術政策総合研究所・
財団法人自然環境研究センター) yhatase@jwrc.or.jp



5月下旬から6月に道路法面や河川敷を一面に黄色く染めて満開となるこの種については、平成18年に特定外来生物に指定され、その是非が議論となったことが記憶に残る人も多いだろう。

オオキンケイギクは北アメリカの東部から中西部に自生する多年生草本である。フロリダでは1960年代から幹線道路の美化のため自生の野草である *Coreopsis* 属が用いられるようになった。オオキンケイギクを含む *Coreopsis* 属は、道路緑化に広く使われ、親しまれたことから1991年にはフロリダ州の花に指定された。

日本にオオキンケイギクが導入されたのは1880年代(明治時代)といわれる⁹⁾。オオキンケイギクは一面に広がって開花する様子が美しいだけでなく、病害虫が少なく強健で、こぼれ落ちた種子もよく発芽する。その優れた性質ゆえに近年、ワイルドフラワーとして緑化への利用が広がった。その一方で、自然植生や半自然植生への侵入が見られるようになり、現在ではほぼ日本全国に逸出・定着している。オオキンケイギクは河川、道路沿いや海岸で繁茂するほか⁵⁾⁹⁾、半自然草地に侵入し、偏向遷移を引き起こしているとの指摘もある⁸⁾。木曽川中流域では河原特有の在来種が生育する群落に多く出現する傾向があった⁷⁾。遷移の進みにくい環境に依存する河川の在来の希少植物などの生育を脅かすことが指摘されるようになった背景には⁹⁾、繁殖力が強く強健な本種の性質があると考えられる。

オオキンケイギクは種子繁殖を盛んに行うほか、刈り残したり、抜き取りきれなかったりした根茎からすぐに再生する丈夫な植物である³⁾。木曽川河川敷のオオキンケイギク優占群落では、種子生産量は約3,000~5,000粒/m²ほどであった⁶⁾。種子には休眠性が知られ、生存期間は種子サイズによって異なるが2~13年と報告されている¹²⁾。木曽川の調査地では、種子散布直前の時期における土壌中の生存種子量が約1,150~2,160粒/m²あり⁶⁾、この調査地から採取した表土からもオオキンケイギクの発芽が確認された⁴⁾。オオキンケイギクを抜き取った後にこれら埋土種子の発芽が盛んになるため、防除にあたっては注意が必要である。

オオキンケイギクは前述のように明治時代に導入された

されるが、全国の法面や河川敷に一面に広がるようになったのは最近といわれる。そのため、近年の利用の仕方がこの種を侵略的にするきっかけになったのではないかと思われてならない。有用植物を侵略的外来種にし、第二第三のオオキンケイギクを生み出さないためには、自然環境中に定着しやすい侵略的な性質をもつ種類の利用や、脆弱な自然環境中に拡散しやすい方法での利用をしないよう、気をつける必要があるのではないだろうか。

引用文献

- 1) Banovetz, S.J. and Scheiner, S.M. (1994) The Effect of Seed Mass on the Seed Ecology of *Coreopsis lanceolata*: American Midland Naturalist, 131(1): 65-74.
- 2) Banovetz, S.J. and Scheiner, S.M. (1994) Secondary Seed Dormancy of *Coreopsis lanceolata*, American Midland Naturalist, 131(1): 75-83.
- 3) Batianoff, G.N. and Halford, D.A. (2002) *Coreopsis lanceolata* L. (Asteraceae): another environmental weed for Queensland and Australia, Plant Protection Quarterly, 17(4): 168-169.
- 4) 藤原宣夫 (2007) オオキンケイギクの駆除に関する研究 分布形態・種子生産量・刈り込み試験からの考察, 平成19年度日本造園学会中部支部大会研究発表要旨集: pp. 7-8.
- 5) 藤原宣夫・大嶽和憲・安藤理恵 (2006) 特定外来種オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* の可児市における分布特性, 平成18年度日本造園学会中部支部大会研究発表要旨集: p. 51.
- 6) 畠瀬頼子・小栗ひとみ・松江正彦 (2007) 木曽川の礫河原に侵入した特定外来種オオキンケイギクの生育・開花特性と種子生産, ランドスケープ研究, 70(5): 467-470.
- 7) 畠瀬頼子・小栗ひとみ・松江正彦 (2008) 木曽川中流域における植生変遷と特定外来生物オオキンケイギクの分布特性, ランドスケープ研究, 71(5): 553-556.
- 8) 斎藤達也・大窪久美子 (2006) 外来植物オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* の定着した半自然草地の種組成および群落構造と遷移状況, ランドスケープ研究, 69(5): 541-544.
- 9) 自然環境研究センター編 (2008) 日本の外来生物, 平凡社, 480 pp.